

2008.3.7

山陰中央新報

「松江藩は不昧公の時
代に、倒産状態の財政を
立て直した」ことは知っ
ていたが、二百年以上も
昔のことで資料も十分残
っていないだろうし、封
建時代のことで現代には
あまり参考にならないだ
ろうと思っていた。とこ
ろが、最近、松江在住の
史家・乾隆明氏から自著
の『松江藩の財政危機を
救え』という六十万余の
本をお送りいただき、読
んでみて驚いた。

第一に、藩の重役の寛
え書、会計簿、さらには
藩外からの訪問者の見聞
録などの資料により、不
昧公の行った改革や政策
が相当程度分かるという
ことである。乾氏は過去
の研究成果なども丹念に
分析・整理して分かりや
すくまとめておられる。

第二に、財政の健全化
のために支出を切り詰
め、収入を増やすのが常
道であるが、封建制度の
下で強引に藩士の家禄
（かろく）削減などを行
い、新田開発や農民の年
貢の引き上げなどを行っ
たのだから程度に思っ
ていた。しかし著者は、財
政再建の中心は藩内での
産業振興により特産品を

作り、これを諸国に販売
して「外貨」を稼いだこ
とにあり、当時の「優れ
た経済感覚は、現代の我
々と比較しても先進的」
だとされている。

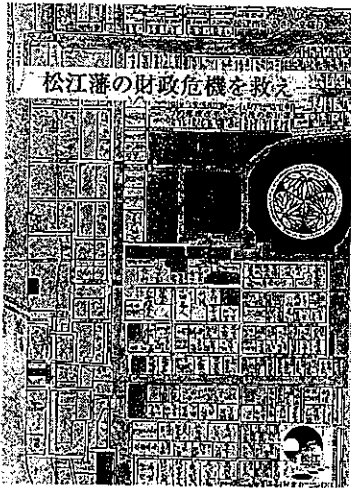
七代藩主治郷（不昧公）
が明和四（一七六七）年、
十七歳で藩政を引き継い
だときには五十万両（千
五百億円相当）の借金が
（ごきんぞうおんありが
あった。当時の藩の年貢
等収入は約十万両（三百
億円相当）で、借金残高
は年間収入の五倍にもな
り、返済の財源の多くが年貢
ぼった。この借金を三人
以外の収入の増加、つま

基礎にいつつ、夫道湖周
辺の丘陵地や川上には
ハゼを植えてロウソクを
作って大阪へ積み出し、
中山間地では薬用人参
（にんじん）を栽培し、
藩の「人參方」が漢方薬
として長崎で清国商人に
売り、隠岐や島根半島で
はアビヒやナマコなど中
華料理の食材を「俵物」
として長崎に送って清国
に売り、タタラ製鉄は全
国有数の鋼を作り、平田
を中心とした木綿は松江
藩最大の「国益」産業に
育った。

百種類にのぼる「他国
から金銭をかせぐ国益産
業」を番付表にした『雲
陽国益鑑』を見ると、現
代以上に「外貨」を稼ぐ産
業が活発だったようだ。
文化人の殿様治郷は家臣
に「貧殖理財につとめよ」
と言って産業振興に力を
入れた。この時期、松江
藩の人口は産業の発展と
ともに増加し、薩摩、加
賀などの雄藩をしのいで
いたらしい。

著者は最後に「夢のよ
うな繁栄を誇った幕末の
出雲国が、近現代になる
となぜ経済的な後進地域
になったのかと自問し、
一言で言えば「産業構造
の変化についていけな
かった」からだと言及して
いる。例えば、平田の木
綿はインドやアメリカか
らの輸入品に押され、タ
タラ製鉄は釜石・八幡の
官営の近代製鉄所に圧倒
され、薬用人参は西洋医
学に追われ、ロウソクは
ガス灯や電灯によって代
り、島根を見るとき、戦
後の工業化にも遅れて最
近は人口も減っている
が、発展が遅れたため
かえって豊かな自然、古
き良き文化・歴史、まじ
めによく働く人々と温か
い人間関係といったもの
が、世の中の変化の中で
大きな強みになってきて
いるように思う。私はこ
の強みを生かしながら財
政健全化と産業発展を両
立させ、島根の活性化を
図っていく必要があると
思う。本書は私に
強い刺激を与えてくれ
た。

（島根県知事）
乾隆明著『松江藩の財
政危機を救え』は松江市
教育委員会発行・五二五
円。



乾隆明著『松江藩の財政危機を救え』の表紙

不昧公の時代と現代

『松江藩の財政危機を救え』を読む

〈溝口善兵衛〉